

奮闘の日々

20代のフレッシュスーパーソン

[90]

伊藤製作所 技術部設計課

えとう・ちひろ
江藤 千尋さん

伊藤製作所(本社四日市市)技術部設計課の江藤千尋さん(23)は入社5年目。工作機械を制御する加工プログラムの作成を担当している。

鈴鹿市出身で、四日市商高に進学。就職活動中、同社を訪問したことが人生のターニングポイントになった。多くの四日市商高出身者が活躍していたことに加え、社員が皆、親切に接してくれた。「ここなら長く働くことができそう」と感じ、入社を決意。2015年4月に入社した。

入社後、品質管理や生産管理を担当した。専門用語を覚えるのに苦労したが「理解できるまで先輩たちが丁寧に教えてくれた」。周囲のサポートに加え、高校3年間で簿記や情報処理、秘書検定など10種類もの資格を取得するほどの勉強熱心さで、成長していった。

その後、技術部設計課に異動し、金型をつくる工作機械の加工プログラムを作成す



工作機械を制御する加工プログラムの作成を担当している

るようになった。CAD(コンピューターによる設計)で描いた製品の設計図面を基に、工作機械の動作を決めるソフトウェア「CAM」を駆使し、プログラムをつくる。CAMで工作機械の動きをシミュレーションすることもある。

ものづくりの醍醐味(だいごみ)を知ったのは2年目の秋。江藤さんが作成したプログラムによって、初めて金型の加工が行われた。画面上のシミュレーションでは感じることでできない迫力に圧倒された。完成した金型を手に取り時間を忘れてしばらく眺めていた。

業務では、限られた時間で成果を挙げようと、常に工夫を凝らしている。社内のパソコンで受発注状況を管理する表データを共有し「見える化」することで、生産性向上につなげた。今年10月には、優れた業務改善を行った社員を顕彰する社内表彰「カイゼン提案賞」で、4~9月のノミネート者10人の中から最優秀賞受賞者に選ばれた。22歳(当時)での受賞は歴代最年少だった。

今後さらなるスキルアップに意欲を燃やす。将来を見据え「CADもマスターしたい」。あくなき向上心を持ち続けている。休日の楽しみの一つは、音楽ライブへの参加。「会場が一体となる雰囲気が好き」と目を輝かせる。